

寺院

天草で最も古い寺としては山口の蘇迷嶽観音院で天慶4年（941）弘法大師の法孫妙覚法印の開基といわれている。天正元年（1589）の「天正の合戦」で小西行長の兵火を浴び、全焼している。

鎌倉・室町時代の寺跡については、当時の城跡と関連して寺名及び所在が伝承によりいくらか判明している。それらの宗派は殆どが真言宗か天台宗であったといわれている。

文應元年（1260）大蔵太夫（播磨局）が来迎寺（亀川）を建立している。また、正和2年（1313）には天台宗の信福寺（一町田）が建立されている。

キリスト教が伝来されると、仏教や神道を否定し対立するようになり、キリシタンによる破壊行為が推測される。

慶長18年（1613）幕府のキリシタン禁止令が出され、一向宗（浄土真宗）の寺を各地に創建してキリシタンは強制的に改宗させられ、迫害を受けるようになった。

寛永14年（1637）の天草島原の乱のキリシタン一揆軍によって社寺仏閣が破壊されたため、乱後、鈴木重成によって社寺仏閣が再興された。

曹洞禅宗では円通寺：1643（寛永20年）など13ヶ寺、浄土宗が寿覚院：1642（寛永19年）など8ヶ寺、真言宗が阿弥陀寺（佐伊津）計22ヶ寺を建立した。神社は、飛龍権現（富岡）と諏訪神宮（栖本）の2社を建立し総計300石の寺社領を付与した。

幕府は、禅宗の東向寺・国照寺（志岐）・浄土宗の崇円寺（一町田）・円性寺（栖本）を「天草4ヶ本寺」として上位に置き、行政面でも各村の庄屋、村役人の目付役等重要な役割を持っていた。

浄土宗

法然上人（源空）1133（長承3年）～1212（建暦2年）を宗祖とする大乘仏教の宗派の一つで、阿弥陀如来、勢至菩薩、観音菩薩を祀る。天草には31ヶ寺がある。

「南無阿弥陀仏」（念仏）を唱える。総本山は京都の知恩院である。

無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経を所依とし、阿弥陀仏の他力本願の信によって往生おうじょうを期することを旨とし、その称名念仏は仏恩報謝ぶつおんほうしゃの行であるとする。

他の仏教宗派に対する真宗の最大の違いは、宗教儀式や習俗にとらわれず、報恩謝徳の念仏と聞法を大事にすることである。没後与えられる名前も戒名ではなく、法名と言いい、僧侶には肉食妻帯が許される。

浄土真宗：真宗（一向宗 門徒宗）

浄土の一宗を創唱した法然（源空）の門弟親鸞しんらん1173（承安3年）～1262（弘長2年）によって開かれた仏教の一派で、真宗とも略称する。阿弥陀一仏を念じ、天草には東派：円覚寺：1536（天文5年）・鎮道寺：1592（元禄元年）など8ヶ寺、西派：円慶寺1541（天文10年）・願成寺：1604（慶長9年）など36ヶ寺がある。

※一向宗は、一向一心に阿弥陀仏を念ずる処から浄土真宗の俗称である。

町内では下向と栢原上の一部が真宗東本願寺派の門脈である延慶寺（本戸馬場）の檀信徒である。（過去に佐伊津の西法寺（浄土真宗西本願寺派）に所属していたという）

※「天草近代年譜」によると安永6年（1777）・文化10年（1813）の2度にわたり栢原で秘仏を崇拜したとしてお咎めを受けているが、宗教の自由がなかった時代のできごとながら、当時の幕府は権力に任せた統治を横行させていたと思える。

※本町では東向寺が開かれる以前、寺領・二又地区に「てらんでゃあら」と呼ばれる地名からお寺があったのではという伝承がある。

また、佐伊津の西芳寺川上慈光住職から「西芳寺が島子に移る慶長2年（1597）前までは、本村二又の寺^{じやーら}平にあったが鈴木様から追放され、仏像は二又阿弥陀堂裏の滝壺に投棄された」という話を聞いたことがあるが、詳細については不明である。

※明治12年（1879）栢原上・下向16戸が東向寺門徒から延慶寺門徒へ転属

曹洞禅宗

禅宗（曹洞宗・日本達磨宗・臨濟宗・黄檗宗・普化宗）は、達磨（菩提達磨・達磨祖師・達磨大師ともいう）がインドから中国に伝え成立したとされる大乘仏教の一派で、日本には鎌倉初期に伝わり盛んになった。もっぱら只管打座禅を修行し、内観・自省によって心性の本源を悟ろうとする宗門である。

日本における曹洞宗は道元（高祖承陽大師）1200（正治2年）～1253（建長5年）瑩山（太祖常濟大師）1264（文永元年）～1325（正中2年）の一仏両祖である。宗派の約1万5千カ所の寺は、大本山は福井県の永平寺（道元）と横浜の総持寺（瑩山紹瑾）の二大本山である。歴史的には熊本の^{きん}大慈寺は九州本山と呼ばれた期間があった。

東向寺は山口県の瑠璃光寺の門末に属し、東向寺の門末寺院は、芳證寺（御領）・遍照院（大矢野）・正覚寺（上津浦）・明栄寺（小宮地）・金性寺（教良木）である。



松栄山 東向寺

天草島原の乱後、天領となった天草に初代代官として着任した鈴木重成公が乱後の民心安定と教義を伝えるため、実兄の石平道人鈴木正三禅師を招いて仏教再建に携わり、曹洞禅宗11ヶ寺、浄土宗8ヶ寺真言宗1ヶ寺が創建された。

慶安元年（1648）新休村に松栄山東向寺を新建し、山口の瑠璃光寺より中華珪法を開山として迎え、天草四ヶ本寺の筆頭として寺領5



○石が付与された。



当時宗教政策寺としての役割を果たした。

伽藍本堂には釈迦牟尼如来・普賢菩薩・文殊菩薩の他、達磨大和尚・招宝七郎大権修理菩薩・十六羅漢・開祖道元禅師をはじめ、**徳川家歴代の位牌**、開山中華珪法禅師、以下歴代和尚の位牌が祀られている。

当時は幕府の威光を示し、山門を通る者はたとえ武士でも下馬して徳川家菩提を伏し拝んだと云う。

寛文4年申辰（1664）東向寺2世神養珪谷和尚の代に梵鐘を鑄造したが、第二



次世界大戦のおり供出している。昭和35年（1960）檀信徒の寄付により新たに梵鐘を改鑄した。現在の鐘楼堂は、平成23年（2011）7月再建された。

天保3年（1832）18代老山梅翁和尚の代に七堂伽藍が焼失した。現在の建物は庫裡が嘉永元年（1848）本堂は安政7年（1860）再建されたものである。庫裡の葺き屋根も瓦に葺き替え、その後も数次にわたる改修を重ねてきた。

安政4年（1856）大矢野上村の竹添順左衛門筍園によって東向寺内に私塾「聴松堂」が開塾された。

安政6年（1858）東向寺を肥後33観音11番札所に指定された。

山門の裏側には、仁王像や16羅漢・稻荷などが安置されていた。（後に16羅漢は開山堂に遷座）



本堂入口の扁額「護国場」は永平寺44世、越宗禅師によるもので、永平寺67世、元峰禅師による「無上尊」・「無価珍」の扁額や双聯、開山中華佳法の条幅、端岡珍牛の竹図、漢山道一・上籃天中の六局屏風、信叟仙受の条幅など歴代和尚の書画は特に有名である。また、格天井絵

や板戸に描かれた「梅に叭叭鳥図」はとりわけ貴重である。



平成8年（1996）東向寺開創350年記念事業では、庫裡に格天井絵が新しく奉納されている。

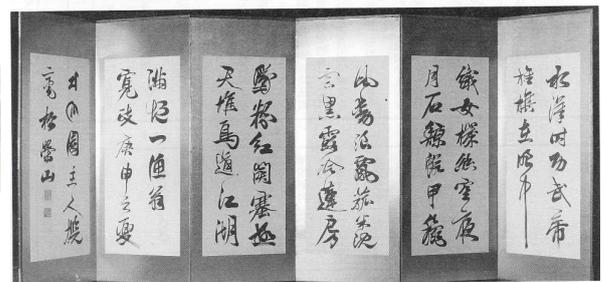
昭和14年（1939）境内に聖徳太子像を建立

昭和34年（1959）新四国88カ所天草霊場 東向寺 別格所指定

昭和50年（1975）境内墓地が竣工

平成12年（2000）陶創「民吉」記念碑を建立

平成16年（2004）東向寺境内墓地改修



松栄山 東向寺

寺 領 50石

曹洞宗 本町新休27-1番地

本 尊 釈迦牟尼如来

伽 藍 本堂194坪（640㎡）

その他260坪（858㎡）

境内地 59,150坪（19,635㎡）

沿 革

慶安元年（1648）代官鈴木重成公によって創建 開山は中華珪法

天保3年（1832）失火により七堂伽藍を全焼

嘉永元年（1848）庫裡再建

安政6年（1859）5月21日 肥後33観音霊場11番札所指定
 安政7年（1860）本堂再建
 宗教法人設立登記 昭和28年3月2日

東向寺の法会

毎年12月1日より1週間、法会を開く他、
 春・秋の彼岸と7月、施餓鬼供養。

- 1月16日、羅漢構式。
- 2月15日、涅槃忌の法要
- 4月 8日、釈尊降誕会。
- 8月28日、永平開山忌。
- 9月23日、当山開山忌。
- 10月5日、達磨忌供養。



東向寺歴代住職

開山	中華佳法	11世	牧山孝牛	21世	鶴翁良壽	31世	行雲守信
2世	神養硅谷	12世	超宗越覺	22世	信叟仙受		
3世	法山洋海	13世	端岡珍牛	23世	祖孝単靈		
4世	楊山義州	14世	漢山道一	24世	文堂祖明		
5世	密山道實	15世	上籃天中	25世	仏觀善應		
6世	泰林光心	16世	大倫喝三	26世	雪堂青峰		
7世	海針通門	17世	守巖初一	27世	大峰石龍		
8世	補道覺中	18世	老山梅翁	28世	一峰石貞		
9世	靈泉惠照	19世	無著正宗	29世	鶴堂仙齡		

10世 泰梁惠眞 20世 師静祖眞 30世 大雲禅龍



東向寺歴代の墓

天草の乱後、初代代官鈴木重成が兄正三和尚の意向に基づき民心安定のため建てられた天草四ヶ本寺の筆頭で寺領50石が給されていた。

歴代の住職は「御禅さま」と呼ばれ、天領時代幕府の威光を示すため住職に特権が付与されていた。これら歴代住職の石塔群は境内の西側に開山住職中華珪法を中央に左に2世右に3世の順序で並んでいる。

東向寺末庵（末寺）

雲台山迦葉軒（現在は迦葉寺）

曹洞宗 本町大字本174番地

本尊 釈伽牟尼如来 脇仏に道元禅師

伽藍 本堂45坪（149㎡）

その他 38坪（125㎡）

境内地 105坪（346㎡）

大正12年（1923）迦葉軒を迦葉寺に昇格。

宗教法人設立登記 昭和28年2月11日

創建：元禄5年（1692）東向寺5世密山道実の開祖

敷地は善兵衛が寄進（東向寺記録）

享保10年（1725）東向寺6世泰林光心により迦葉軒を開創（天草近代年譜）

地藏菩薩建立：宝暦12年（1762）その他、観世音菩薩など大小40体

准胝観音建立：文化12乙亥（1815）

賓頭盧尊建立：明治10年（1877）

孝子碑建立：大正3年（1914）

大正2年（1913）本堂、庫裡大改修

大正3年（1914）鐘突き堂建立

大正12年（1923）迦葉寺に昇格

昭和28年（1953）本堂庫裡修理、昭和28年2月11日、宗教法人登記

昭和34年（1959）四国88力所天草霊場第85番札所指定

平成9年（1997）本堂庫裡新築再建

平成21年（2009）迦葉寺11世晋山式



歴代住職

- 開山 密山道実（東向寺5世） 元禄5年（1692）
創建 泰林光心（東向寺6世） 享保10（1725）
2世 信叟仙受（東向寺22世） 明治13（1880）
3世 佛洲仙英
4世 鐵巖仙雄
5世 廣田仙勇
6世 滴水雷音 明治39年（1906）
7世 佛闕嶺長（松樹嶺長） 明治42年（1909）
8世 南嶽嶺昌 昭和2年（1927）
9世 大拙賢英（小野賢英） 昭和12年（1937）
10世 大愚賢雄（小野賢雄） 昭和41年（1966）
11世 修覚啓二（葛西啓二） 平成14年（2002）

染岳観音院

明和6年己丑：1769東向寺10世泰梁慧真 染岳観音院を再興東向寺門末とする

廃庵になった東向寺末庵

普門院（下河内）

慶安3年（1650）創建 佐藤彌兵衛により開基
本尊、聖観世音菩薩
昭和49年2月宗教法人解散

聖福庵（福岡）

寛文11年（1671）東向寺4世楊山義州創建
本尊、聖観世音菩薩
昭和28年3月宗教法人合併設立
昭和49年9月宗教法人解散

光徳庵（平床）

天和2年（1682）東向寺4世楊山義州創建
本尊 地藏菩薩
昭和49年9月宗教法人解散

花谷庵（新休）

寶歴年間（1751～1763）東向寺8世補道覺中創建
本尊 釈伽牟尼如来
昭和28年3月宗教法人合併設立
昭和49年9月宗教法人解散

香福庵（鶴） 寛政2年（1790）創建

本尊 地藏菩薩
昭和28年3月 宗教法人合併設立

昭和49年7月宗教法人解散

宝殊庵（本泉）

本尊 地蔵菩薩

昭和28年3月 宗教法人合併設立

昭和49年7月宗教法人解散

神社

一般に村の氏神には、集落の生活共同体を構成する上で結束を保つ必要性から、農耕守護神的性格を持ち、血縁や同族集団の社として祭られる祖先神や、地縁によって結ばれた集団が共同で祭る産土神^{うぶすな}がある。

明治維新以降、神道説（神仏分離）の展開につれ、神社は時代と共にその役割を果たしてきた。また神社には社格（官幣社 国幣社 府県社 郷社 村社）が与えられていたが、戦後廃止された。

下河内神社 本村神社は勧請神で、十五柱神社に属する。新休神社は天満宮系神社で菅原道真公を祭り文学学問の神として祭られている。

また、農漁民の信仰を集めた諏訪宮系神社の中には生前の忠烈功德を称え、その神霊を慰め祭祀した偉人神で、承応2年（1653）10月14日、島民の困窮を救おうとして自刃した鈴木重成を祭る鈴木神社があり、当神社は天草島民の守護神として広く島民に尊ばれている。

現在、本町の宗教法人神社は、鈴木神社・下河内十五社宮・新休若宮神社・本村十五社宮がある。

その他、掛道神社・下の尾神社あるが詳細については不明。

鈴木神社

旧社格（無格社） 本町

大字本681番地

祭 神

鈴木三郎九郎重成命、

鈴木伊兵衛重辰命、

鈴木九大夫重三命

例祭日 11月23日

年間恒例祭儀20回

境内地 1485坪（4900㎡）

社 殿 入母屋造38坪（125㎡）

本殿、幣殿、拝殿 鳥



居、石燈籠、鈴木明神伝碑、句碑3、詩碑、お手洗い鉢、
扁額「和楽」鈴木和政書（天明8年）・社紋「右三つ巴、下がり藤」
社務所、野外舞台、倉庫

宗教法人設立登記 昭和28年4月21日

沿革

寛永14年（1637）～15年天草島原の乱後、疲弊した天草を再建するため初代代官として着任した鈴木重成は石高(税)半減を身を呈して幕府へ訴え、飢餓寸前であった島民を救った。この偉業に感謝した島民が鈴木三神を神として祭り、寛政2年（1749）寺領前原に、鈴木社を建立した。

天明8年（1788）旧暦10月14日、鈴木社を茅葺きの社殿拝殿に改築し、東向寺常恒會結成を記念に鈴木社境内で、相撲興行を催すと共にこれより14日を社祭日と定めた。

文政6年（1823）神祇管長より、鈴木神社と称する神宣状を賜わる。

文化8年（1811）鈴木三神を称える顕彰碑を建立した。

昭和58年（1983）330年祭を記念して鈴木神社拝殿を新築落成した。

昭和61年 野外演舞場舞台を設置

昭和63年 第15代宮司に田口孝雄就任

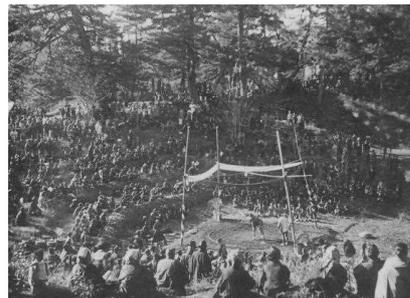
平成3年より顕彰祭11月23日（勤労感謝の日）

※鶴地区青壮年有志による奉納相撲復活

平成4年、第3鳥居を建立。

平成13年 新社務所落成

平成15年 鈴木重成公350年祭・記念事業



下河内十五社宮

旧社格（村社）本町大字下河内2214番地

祭神 天照皇大神、神武天皇、綏靖天皇と阿蘇十二柱（健甞龍命・阿蘇姫神・国龍明神・彌姫明神・彦御子明神・姫御子明神・若彦明神・若姫明神・新彦明神・新姫明神・国造明神・金礎明神）

例祭日 旧9月8日 現在は10月第1日曜日

境内地 1065㎡

社殿 入母屋造14坪（46㎡）本殿、幣殿、拝殿

創建年月日：不詳

拝殿再建：文化2年乙丑9月（1804）

鳥居 貞享5年（1688）建立（庄屋 佐藤平左衛門）

明治28年己未9月再建



平成4年10月建立 酒井秀次・岩崎健奉納

石燈籠 享保10年乙巳3月(1725) 明和2年乙酉(1765)

平成4年10月建立 酒井秀次奉納

狗犬像 大正9年 毛利直三郎奉納

付帯設備 手水鉢 泉水池 遊具(ぶらんこ)

宗教法人設立登記 昭和28年4月21日

宮所有山林 本町大字下河内2213番地 3723㎡

// 農地 本町大字下河内2225番地 1256㎡

※境内に、山神社・水神社を併祀してある。

新休神社(若宮)

旧社格(村社) 本町大字新休696番地

祭神 菅原道真公

例祭日 9月25日

境内地 205坪(677㎡)

社殿 入母屋15、5坪(51㎡) 本殿、幣殿、拝殿

創建年月日:不明

※若宮社と刻字した標柱 文政12年己丑建立(昭和64年1月鶴田功確認、平成19年現在不明)

鳥居建立:弘化4年丁未(1847)

宗教法人設立登記 昭和28年4月21日



旧新休村の鎮守である若宮様の鳥居が建立された弘化4年、天草の百姓たちは銀主に田畑を質地に差出し暴利をむさぼられ生活困窮に陥っていた。こうした百姓を救済しようと御領村大庄屋長岡五郎左衛門は「百姓相続仕法」徳政令改正を求め御法度を承知で長崎奉行所へ出訴、更には江戸幕府へ越訴して捕われの身となり、長崎奉行所に投獄されてしまった。

彼を救うため古江村庄屋永田隆三郎を頭に新休村の百姓熊蔵、本村の五八、下河内村の市次郎、御領村の庄右衛門、辰右衛門、打田村の銅助等主立つ者が集まり、こゝ新休鎮守堂で密儀を交わした。数千人が結集し、天草中の銀主の家々を打棄(破壊)した。ついに「百姓相続仕法」は復活され、後世に多くの民百姓救済の基盤となったのである。

本村十五社宮(寺領)

旧社格(村社) 本町大字本693番地

祭神 天照皇大神、神武天皇、綏靖天皇と阿蘇十二柱(健甕龍命・阿蘇姫神・国龍明神・彌姫明神・彦御子明神・姫御子明神・若彦明神・若姫明神・新彦明神・新姫明神・国造明神・金礎明神)

例祭日 10月19日

境内地 629坪(2076㎡)



社 殿 寄棟造19坪(63㎡)本殿、幣殿、拝殿

創建年月日：不明

昭和38年(1905)2月、拝殿再建

鳥居建立：享保16年辛亥8月(1731) 庄屋 磨田孫右衛門

手水鉢設置：文政10丁亥(1827)9月

宗教法人設立登記 昭和28年4月21日

本村神社は天照皇大神、神武天皇、綏靖天皇と健甞龍命、阿蘇姫神、国龍明神、彌姫明神、彦御子明神、姫御子明神、若彦明神、若姫明神、新彦明神、新姫明神、国造明神、金礎明神の阿蘇12柱を祭神として祀られている十五社宮。旧本村の守護神として参拝者も多く旧社格は村社である。

創建年月日：不明

拝殿再建：昭和38年(1905)2月 氏子

鳥居建立：享保16年辛亥(1731)8月(庄屋 磨田孫右衛門)

手水鉢設置：文政10年(1827)丁亥9月

例祭日は10月19日で注連縄を取替え、米・餅・御神酒・魚・野菜・果物・塩の七品を供えて神職により祭典が執り行なわれる。

山王宮(本村前原)

旧鳥居 安政7年(1860) 庄屋 鶴田新五左衛門

年寄 八重蔵 百姓代 又右衛門 野島万次他36名

山王様は近江(滋賀県)の日吉神社が本社で、祭神は、
おおやまいくのかみ 大山昨神・おおなむちのかみ 大己貴神である。

古事記によれば大山昨神は^{おおとしのかみ}大年神の御子で、またの名^{やますえのおぬしのかみ}を山末之大主神とも申される。

農業神・水神として山の自然と流水を司り、万物を化育する結びの霊徳を有する神で、この神を祭る神社は全国に約五千社ある。

また、子育ての神として知られ、阿蘇神社境内にも祭られている。

寺領前原の山王様は、11月11日が祭日で区民が社殿や境内の清掃注連縄飾りをしてお祭りをする。



掛道神社(掛道)

旧社格(郷社)本町大字下河内上掛道550番地

祭 神 天照皇大神・神武天皇・綏靖天皇・阿蘇十二柱

例祭日 10月17日(旧9月13日)

境内地 2・293㎡

社 殿 寄棟3・3坪(10・9㎡)

幣殿2・3坪(76㎡)、拝殿7・5坪(24・7㎡)

拝殿は藁葺ブリキ被覆

創建年月日：不明



明治28年10月13日再建

※掛道十五社宮の創建は定かではないが、正保元年（1646）に作成された正保郷帳によると枝郷として「掛道村」として石高（31石6斗）の記述があることから、当時、郷社として建立されたものと思われる。

上掛道、下掛道両区の区民により営まれている。

下の尾神社（上掛道）

詳細は不明であるが、掛道神社の元宮ではないかと推測されている。



宗教（信仰）関連年表

941	天慶 4	弘法大師の法孫妙覚法印が蘇迷獄観音院（真言宗）を開基
1260	文應 元	大蔵太夫（播磨局）亀川に来迎寺を建立
1283	弘安 6	本砥郷山口に諏訪宮を建てる
室町時代		
1313	正和 2	河浦一町田に信福寺（天台宗）開山
1340	興国 元	蘇迷獄観音院に無外禅師が入山
1358	延文 3	棚底に大権寺（石塔に記年刻印）
1502	文亀 2	河浦益田に観音寺（浄土宗）再興
1505	永正 2	河浦今村に薬師寺（浄土宗）再興
		栖本湯舟原に利明寺（浄土宗）再興
1536	天文 5	城木場城主砦久大膳太夫 圓覺寺（真宗西）開基 現南町
1541	10	本戸馬場村に延慶寺（真宗東）創建
1549	天文18	フランススコ・ザビエル鹿児島に上陸 キリスト教布教
1566	永禄 9	志岐麟泉 キリスト教宣教師ヴィレラを招聘する
1568	永禄11	天草鎮種 修道士アルメーダを招聘する
		崎津に天主堂を建設
1569	永禄12	一町田の信福寺（天台宗）焼失
1570	元亀元	志岐で全国の宣教師を招き宗教会議を開く
安土桃山時代		
1575	天正 3	姫戸に靈光寺（真宗西）創建
1582	天正10	大友宗 麟、ローマに遣欧少年使節団を派遣
	天正10	久玉に正光寺（真宗西）創建
1587	天正15丁亥	豊臣秀吉バテレン追放令を出す
1589	天正17己丑	蘇迷獄観音院（真言宗）が小西行長の兵火を浴び全焼
1591	天正19辛卯	コレジオ（大神学院）天草学林口之津より天草へ移転
		遣欧四少年天草のノビレアド（修練院）に入る
1592	文禄元年壬辰	町山口村に鎮道寺（真宗東）建立 現富岡

江戸時代

1597	慶長	2丁酉	大島子村に西法寺(真宗西) 建立 現佐伊津
1604	慶長	9	富岡に龍福寺(曹洞宗) 創建 寺沢志摩守
			富岡に清円寺(浄土宗) を創建 寺沢志摩守
1612	慶長	17	一町田の信福寺(浄土宗) 開山 (覺蓮社正譽上人)
1613	慶長	18癸丑	将軍徳川秀忠 全国にキリシタン禁制を発令
1616	元和	2丙辰	鎮道寺に真宗天草総録所を命じ富岡へ移転
1629	寛永	6己巳	踏絵令を発す 切支丹宗徒の大検挙
1637	寛永	14丁丑	10 天草島原の乱
			切支丹一揆勢(天草四郎) と領主寺澤勢が島子村で合戦
			本戸の合戦で番代三宅藤兵衛討死
			本村及び近村の百姓が天草四郎勢を攻撃
		11	更に富岡城を攻めたが落ちず坂瀬川より原城へ向かう)
		12	一揆勢原城に籠城
1638	寛永	15戊寅	原城 落城す 天草四郎以下一揆勢3万7千人は討死
			天草より籠城者男女12,208人死滅
1639	寛永	16己卯	幕府は鎖国令によりキリシタンを厳しく取り締まる
天領専任統治			
1641	寛永	18辛巳	幕府天草を天領とし鈴木重成を初代代官に任命
1642		19壬午	富岡に寿覚院(浄土宗) を創建 (鈴木重成)
1643	寛永	20癸未	山口村に諏訪宮を再建 (鈴木重成)
			志岐村に白華山円通寺(浄土宗) を創建 (鈴木重成)
1644	正保元年	甲申	本戸郡代役所跡に禅寺向陽山明德寺(禅宗) 建立 (鈴木重成)
			志岐に国照寺(禅宗) を建立 (鈴木重成)
		11	平床矢筈岳に山ノ神建立
1645	正保	2乙酉	湯舟原村に浄土真仏性山宗円性寺(浄土宗) を再建 (鈴木重成)
			佐伊津に阿弥陀寺(真言宗) 創建 (鈴木重成)
			一町田村に浄土真宗天草山崇円寺(浄土宗) を創建 (鈴木重成)
			御領村に曹洞宗月桂山芳證寺(禅宗) 創建 (鈴木重成)
1646	正保	3丙戌	上津浦に曹洞宗正覚寺(禅宗) を創建 (鈴木重成)
1647	正保	4丁亥	富岡に天草島原の乱戦没者の首塚を建立
			荒河内に観音寺(禅宗) を創建 (鈴木重成)
1648	慶安元年	戊子	11 鈴木重成 命じて新休村に松栄山東向寺(禅宗) 創建
			徳川将軍家菩提所として郡中鎮護の靈場に当てる 中華珪法開基
		12	重成 郡中諸寺社へ寺社領寄与の證書 状を發令
			総石高300石 東向寺50石 国照寺45石
			円性寺30石 崇円寺30石 瑞林寺15石
			明德寺12石(内2石明栄寺) 芳證寺12石(内2石長興寺)
1650	慶安	3庚寅	下河内村に普門院創建 佐藤彌兵衛

1651	慶安	4辛卯	夏	東向寺の工略々成就 中華珪法 家光の 廟 <small>びょう ちょうれい</small> に弔 禮
1653	承應	2癸巳	春	重成上府す 直接老中に郡状を訴え 石高半減の聴許求む
			10	重成 江戸神田賜邸において自刃（自害）する 年66 小宮地に明栄寺(禪宗)を創建(鈴木重成)
1654	承應	3甲午		自刃した鈴木重成公の遺髪を中華珪法が貰い受け寺領内に埋葬する 郡中に始めて切支丹禁制の高札建つ
1655	明暦元	乙未	4	鈴木伊兵衛重辰を天草代官に任命 下向する(派遣)
1663	寛文	3癸卯	9	天草東部禪宗本寺 新休 東向寺開山の中華珪法が示 寂 <small>しじやく</small> (死去)
1664	寛文	4申辰	6	新休 東向寺梵 鐘改 鑄(2世神養珪谷) <small>ほんしょうかいちゆう</small>
1665	寛文	5乙巳		鈴木重成 重辰の功績を称え 郡民各村に鈴木塚を建立
1671	寛文11	1辛亥		福岡 聖福庵創建
1672	延寶	元癸丑		染嶽観音院の草庵として〔慈眼庵〕を建立
	二次天領統治			
1682	天和	2		平床に光徳庵(香徳庵)創建(東向寺4世楊山義州)
1688	貞享	5戊辰	8	下河内十五社宮鳥居建立(庄屋佐藤平左衛門)
1692	元祿	5壬申		幕府對高野山學侶行人之間の衝突進行裁判 驅逐千余人 幕府 高野山の真言宗僧徒 600余人を流刑 <small>るけい</small> 東向寺五世、密山道實により寺領に迦葉軒を開山
1693	元祿	6癸酉		高野山の行人僧 140人を天草へ流刑 富岡7 志岐16 御領15 本戸20 栖本20 大矢野18 砥岐8 久玉7 一町田11 大江10 五島155 隠岐155 高野山流人権大僧都法印榮遍 覺位、大浦で示寂(九品寺)
1694		7		高野山流人権大僧都法印祐慶大和上、大浦で示寂(九品寺)
1697	元祿10	丁丑		高野山流人長福院阿闍梨秀漢、志岐で示寂(国照寺)
1698	元祿11	1		高野山流人故正福院乘良雲、志岐で入寂(国照寺)
1703	元祿16	癸未		染嶽観音院を代官今井九右衛門により黄檗宗として再建
1706	宝永	3		福岡の聖福庵境内に地藏尊建立
1713	正徳	3癸巳		高野山正覚院権大僧都法印秀量、志岐で示寂(国照寺)
1725	享保10	乙巳		染嶽観音院(曹洞禪宗)再興
			3	東向寺六世泰林光心 迦葉軒を創建
1728	享保13	戊申	2	下河内神社に石灯籠建立 新休村東向寺6世泰林光心示寂す 年62才
1731	享保16	辛亥	8	福岡行人岳に観世音建立
1749	寛延	2己巳		本村神社に鳥居建立(庄屋 磨田孫右衛門) 新休村東向寺(9世靈泉惠照)随意會地となる <small>ずいいえち</small> 本村前原の鈴木塚近くに石造社殿新建 正式に鈴木社を奉祠し随意會開帳させる
1750	寛延	3辰午		平床矢筈岳に観世音菩薩建立 下河内村庄屋七代佐藤茂兵衛の次男瑞岡珍牛八才にして 新休村東向寺九世、靈泉惠照を禮し薙 髮 <small>ていはつ</small> (剃髮)

1751	寶曆	元辛未	具足戒 <small>ぐそくかい</small> （僧侶が守るべき道德規範・規則）を受く
1754	寶曆	4甲戌	宝曆年間（1751～1763）新休に花谷庵を創建
1755	寶曆	5乙亥	9 福岡下に観世音建立
1762	寶曆	12壬午	12 下河内村庄屋六代佐藤彌兵衛歿す
1763	寶曆	13癸未	寺領迦葉軒下に地藏尊建立
1765	明和	2乙酉	本渡諏訪神社町山口より遷座 <small>せんざ</small>
1769	明和	6己丑	7 下河内神社に石灯籠建立
1770	明和	7庚寅	東向寺10世泰梁慧貞 染岳観音院を再建 東向寺門末とする
1771	明和	8辛卯	下掛道に秋葉神社建立
1773	安永	2癸巳	2 宇土に三界萬霊塔建立
1777	安永	6丁酉	栢原高尾山に鈴木三神の石碑建立 世話人 兵右衛門 栢原において金助 為七 久平等、邪 <small>じゃしゅう</small> 宗の信仰が発覚、 庄屋より一喝され 忽 <small>たちま</small> ち翻 <small>ほんしん</small> 心（悔い改める）3名は 惣村中へ詫び證文を入れ内済となる
1778	安永	7戊戌	大島子村に隠れ切支丹4名が発覚 牢屋 手鎖
1785	天明	5乙巳	栢原下に地藏菩薩建立 手水 鉢寄進 <small>ちようずばち</small> （弥平、重助、福次、宗太郎、儀助）
1786	天明	6丙午	福岡に秋葉様建立
1788	天明	8戊申	2 東向寺12世超宗越覺 常恒會 <small>じょうこうえち</small> 地聽許を得て帰山する 10 東向寺常恒會開発結制申立相撲興行（13日まで） 10 本村前原鈴木社を茅葺きの社殿拝殿に改築鈴木三神を 祭神として併祠し常恒會結制に引き続き15日まで開帳 相撲興行を続行これより 14日を以て社祭日 と定める
1789	寛政元年	己酉	1 瑞岡珍牛（48）長州より帰山し染嶽観音院へ入る 8 珍牛、東向寺へ晋山 <small>しんざん</small> （13世） 12 下河内神社に石灯籠建立
1790	寛政	2庚戌	本村鶴に香福庵創建
1794	寛政	6甲寅	宗門改めの為島原表より出役 鈴木神社下に観世音建立
1795	寛政	7乙卯	新休中尾に金比羅様創建
1796	寛政	8丙辰	宗門改めの為 島原表より出役
1797	寛政	9丁巳	7 東向寺山門前に準堤尊（准 <small>じゅんてい</small> 胝観音）建立
1799	寛政	11己未	宗門改めの為島原表より出役
1802	享和	2壬戌	7 下河内普門院入口に準堤尊（准胝観音）建立
1804	文化元年	甲子	今富村で銅製の異仏が発見される
1805	文化	2乙丑	郡中宗門改め絵踏廻村の為出役 隠れキリシタン発覚 5千人を数える（高浜 大江 崎津 今富） 9 下河内神社の拝殿再建 道面に馬頭観音様建立 9 新休竹ノ尾にアタゴ様建立 10 中鶴に地藏尊建立 願主兵衛門

1806	文化	3丙寅	6	^{かんぼつ} 旱魃に付き 東向寺に於て17日より17日間祈禱 郡中宗門改め絵踏廻村の為出役
		4丁卯		
1809	文化	6己巳		梶山の権田ノ上に観世音菩薩建立
1810	文化	7庚午		郡中宗門改め絵踏廻村の為出役
1811	文化	8辛未	2	本村鈴木神社境内に祭神三君を称えた顕彰碑建立 梶山に観世音創建
1813	文化	10癸酉		栢原の百姓清作外7名が秘仏を拝んでいる事が発覚し 佐藤庄屋へ詫証文を入れ内済に取り計らわれる
1815	文化	12乙亥	1	寺領迦葉軒下に準堤尊(准胝観音)建立
			3	新休花谷庵に準堤尊(准胝観音)建立
1816	文化	13丙子	2	二又阿弥陀様脇に準堤尊(准胝観音)建立
1818	文化	15戊寅	1	洗切に準提尊(准胝観音)建立
1819	文政	2巳卯	4	下鶴に久保利準提尊(准胝観音)建立
1821	文政	4辛巳		道面に地藏菩薩建立 正吉・譽之助
1823	文政	6癸未		本村鈴木社に対し神祇管長より鈴木明神と称する神宣状を下附
1824	文政	7甲申	9	本村鈴木社社殿再建の工成就する 東向寺の裏山に三宮社建立(東向寺の鎮守)
1825	文政	8乙酉		宇土前田家に観世音建立
			12	上鶴に金比羅様建立
1827	文政	10丁亥	9	平床の矢筈岳に十一面観音創建 本村神社に手水鉢設置 ^{ちょうずばち} ^{まりしてん}
1828	文政	11戊子		寺領庄司原に摩利支天さま創建
1829	文政	12己丑	9	新休若宮神社に標柱を建立 本村神社に石灯籠建立
1830	天保	2辛卯		新休若宮神社に石灯籠建立(廃棄)
1832	天保	3		京都知恩院権大僧都定舜上 ^{そうずじょうしゆんしやうにん} 人、河浦へ流罪(信福寺境内墓地)
1833	天保	4癸巳	7	福岡の行人岳に一石一字塔建立 世話人 鶴田兼造
			1	東向寺 出火全焼す 法堂 庫裡 方丈 東司僧堂 衆寮 下部屋 納屋 山門廻廊 鐘樓 法藏二字悉く全焼し僅かに仏像 記録過去帳のみ 残存し古佛の宝物什器一切を焼却す(18世老山梅翁)
1834	天保	5甲午		下河内村百姓壽助騒立件に付取 ^{とりただし} 糺筋あり長崎奉行所 へ出頭させよと郷宿圓城寺儀兵衛方へ届けられる
1834	天保	5甲午	9	寺領に天神様(菅原道真公)建立
			10	下河内村庄屋九代佐藤弥右衛門歿す
1835	天保	6乙未		下鶴に久保利観音様建立 鶴田代に滝の上観音建立 梶山に志賀大明神建立
1836	天保	7丙申	10	前原に弥勒菩薩建立
1838	天保	9戊戌	3	平床矢筈岳に金比羅宮建立
1839	天保	10己亥	10	下河内十五社宮を改築 鈴木神社下に観世音建立

1841	天保12	辛丑		本村神社に石灯籠建立
1842	天保13	壬寅		福岡に行人様建立
			3	二又川に観世音建立
1843	天保14	癸卯		道面に地蔵菩薩建立 岡本政太郎
1845	弘化2	乙巳	7	平床の矢筈岳に観音堂建立
1846	弘化3	丙午	2	栢ノ原 高尾山の鈴木さまに手水鉢寄進 (世話人恒助 為助)
1847	弘化4	丁未		道面に清正公さま建立
				新休の若宮神社に鳥居建立
1850	嘉永3	庚戌		梶山の祇園さまに鳥居建立
1851	嘉永4	辛亥		東向寺伽藍再建 (20世師静祖眞)
1855	安政2	乙卯		新休に將軍様 (鈴木重成) 建立
1856	安政3	丙辰	春秋	勝麟太郎 (海舟) 富岡 鎮道寺に宿す
1856	安政4			寺領引地に城の神様 (鈴木重成) 建立
1856	安政4			大矢野上村の竹添順左衛門筍園が東向寺内に私塾「聴松堂」を開塾
1858	安政6		5	東向寺を肥後33観音11番札所に指定
1860	萬延元年	庚申		東向寺本堂復興
			8	前原の山王宮に鳥居建立
				本村に野狐 <small>やこ</small> 使いが居て2百人餘も一時に熱病患者続出

現代

1873	明治6			切支丹禁制の高札撤廃 (261年間)
1877	明治10		3	寺領迦葉軒境内に賓頭盧尊建立
1879		12		栢原上16戸が東向寺門徒から延慶寺門徒へ転属
1883		16		フェリエ神父大江天主堂設立
1887		20		道面に地蔵堂建立 大工野嶋庄吉
1891		24		新休に祇園様建立
1892		25	6	栢の原下に地蔵堂再建
1893		26		梶山に祇園様 (八坂明神) 建立
1894	明治27		11	下河内神社境内に山神社・水神社を建立
1895	明治28		9	下河内神社の鳥居再建
1898		31		梶山に金比羅様建立
1901	明治34			寺領垣内に金比羅様建立
1906	明治39		3	金比羅様建立
1913	大正2		6	迦葉軒の本堂庫裡を大改修
1914	大正3		9	寺領迦葉軒境内に孝子碑建立
			10	迦葉軒に鐘つき堂建立
1918	大正7		11	梶山に宮地嶽生目社建立
1922	大正11			梶山に馬頭神社建立
1923	大正12			迦葉軒を迦葉寺に改称 道面 秋葉様建立
1932	昭和7			下掛道に秋葉様建立
1939		14		東向寺に聖徳太子像建立 栢原に馬頭観音様建立

1959	34		東向寺 四国88カ所天草霊場別格所指定
			普門院 四国88カ所天草霊場第84番札所指定
			迦葉寺 四国88カ所天草霊場第85番札所指定
			香福庵 四国88カ所天草霊場第86番札所指定
1960	35		東向寺に梵鐘を改鑄
1963	昭和38		本村神社の拝殿を再建
1971	昭和46	3	栢原下の地藏堂を再建
1974	昭和49		普門院. 光徳庵. 香福庵 廃庵
1975	昭和50	6	本渡市文化財に東向寺歴代住職の墓を指定
			東向寺境内墓地建設
1979	昭和54		栢原二十三夜会結成 世話人：坂本幸市
1981	昭和56	5	東向寺梅花講結成
1983	昭和58		鈴木神社330周年大祭 拝殿新築落成
1991	平成 3		鶴に弘法太子堂建立、准低観音堂・地藏堂を再建
		1 1	鈴木神社顕彰祭を11月23日（勤労感謝の日）
		4 2	下河内神社に鳥居建立 鈴木神社に鳥居建立
1994	平成 6	3	栢原下延命地藏堂新築再建（209年前創建）
		6	東向寺第30世 岡部禅龍和尚 <small>おうえひしゃく</small> 黄衣被着
1995	平成 7		上掛道の大師堂再建
1996	8	6	東向寺開創350年法要 伽藍改装 庫裡に格天井絵奉納
1997	9		明日の東向寺の将来を考える会発足 初代会長山崎末雄氏
1997	9	4	東向寺31世入山式
			迦葉寺法堂、庫裡を新築再建
1998	平成10		鈴木正三シンポジウムが開催される
2000	12	4	東向寺に民吉翁祈念碑建立
		5	東向寺第31世晋山式（岡部守信和尚）
			東向寺大改修 庫裡に天井絵設置
2001	平成13	1 2	普門院境内の子安弘法大師堂新築再建
2002	平成14		寺領迦葉寺に葛西啓二和尚が入山
			東向寺境内墓地改修
2003	平成15	1 0	鈴木重成公没後350年式典
			東向寺境内墓地再建
2004	16	9	東向寺第30世 岡部禅龍和尚示寂（逝去）
2009	21	5	迦葉寺第11世 晋山式（葛西啓二和尚）
2011	23	7	東向寺に鐘楼堂再築
2015	27	1 2	東向寺法堂・庫裡改築